地域でのマウスガード普及活動とその効果：愛知県 愛知県SHP協議会の現状と課題

坂井　剛*

臨床スポーツ医学　第20巻　第12号　別刷

（平成15年12月）

地域でのマウスガード普及活動とその効果：愛知県 愛知県SHP協議会の現状と課題

坂井　剛*

はじめに

愛知県でスポーツ・健康づくり(SHP：Sports & Health Promotion)歯学協議会が発足したのは，平成10年10月であった．その後他の県や地区の歯科医師会でスポーツ歯学の研修会が開催されるなど，かなり急速で力強い展開となった．

平成13年6月に愛知県で第1回全国スポーツ・健康づくり歯学連絡協議会を発足させた時点で28県の参加があり，平成14年7月に岩手県で開催された第2回全国SHP歯学連絡協議会には，日本歯科医師会臼田貞夫会長を迎えて，34県の歯科医師会と4県のオブザーバーが参集し，情報交換を行うなど，順調に発展してきた．

3年目を迎える本年は，7月に国際スポーツ歯学・外傷歯科シンポジウムに参加する形で，京都府において37府県の参加を得て開催された．そこで行われた熱のこもった議論は，本協議会の目的とするマウスガードの普及活動が全国で着実に進んでいることを感じさせるものであった．

愛知県SHP協議会設立の経過

1．8020運動とマウスガード

愛知県では平成元年に8020運動をスタートさせた．当時まだ76歳であった平均寿命を80歳に，それに合わせて歯の寿命も延ばして80歳になっても20本の歯を残そうという運動である．

当時80歳の平均残存歯数は4本で，8020の数値目標の達成は100年経っても無理と思われていた．15年後の現在，80歳の平均寿命は達成され，健康寿命74歳を80歳まで延ばそうに変わり，平均残存歯数も10本を越えようとしている．

8020運動の趣旨からいって，スポーツ外傷によって健康な歯を失うなどということは許されないことであり，外傷の予防にマウスガードの使用を勧めることの重要性を認識することとなった．すなわち，愛知県では8020運動の一環としてマウスガードの普及活動が始まったといえる．

2．スポーツ医科学研究所に歯科室を設置

平成6年，当時の研究所長の決断で歯科室が設置され，訪れるスポーツ選手への臨床的な研究，調査が行われた．当時まだスポーツ歯学の研究成果は一部の熱意ある研究者のもので，一般の開業医までは届かなかった．

したがってその歯科室の重要な役割は，臨床研究の成果を開業医が利用しやすい形で提供することにあった．SHP協議会の設立後，愛知学院大学歯学部と朝日大学歯学部の研究者が歯科室へ出向して，開業医に役立つ研究報告がいくつか出されるようになった．これらの報告は愛知県SHP協議会の会誌1～4号[1)]に掲載されている．

また，この歯科室のもう1つの成果は，スポーツ歯学の発展とともにマウスガードが，大きな需要を生む可能性を予見できたことである．

* 愛知県SHP協議会前会長

0289-3339/03/¥100/頁/JCLS

図-1　ステッカー（会員証）

3.　愛知県 SHP 協議会の必要性

大きな需要予測にもかかわらず，開業医約6万5千人のほとんどが，スポーツ歯学の教育を受けておらず，マウスガードの製作もできないのが現実であり，受け皿づくりが急務であった．

そこで平成10年10月，思いきって SHP 協議会を設立した．その時スポーツ医科学研究所の所長であった整形外科の先生が祝辞の中で「スポーツ医学はドーピングの問題で将来的な発展は期待できないが，歯科のマウスガードはドーピングに関係なく大いに期待できる」といわれたことが印象的であった．

しかし，まずは外傷の予防に重点をおいた普及活動を急ぐべきであり，パフォーマンスについてはスポーツ歯科医学会の研究成果に期待するべきであろうと考えている．

4.　愛知県 SHP 協議会の事業内容

本協議会が設立以来行ってきた主な事業内容につき記述する．

①まず受け皿づくりとしてマウスガードの製作実習を含むスポーツ歯学の研修会を毎年8回ずつ開催した．そして受講された先生方を主会員として名簿を作成し，行政や関係団体に配布した．

②会員証としてステッカー（**図-1**）を各診療所に掲示し，患者さんにアピールを行った．現在，県歯会員3,500名の2割にあたる約700名が SHP 会員となっている．

③普及活動としてはメディアへの対応，教育委員会や行政への働きかけ，スポーツ団体への説明などを行い，潜在需要の顕在化を強力に推し進め，材料であるシートの売り上げ増加など，利用者が徐々に増えてきている．

④わずかではあるが研究助成を行い，会員の診療に役立つ研究を大学の研究室に依頼している．

⑤利用者を対象にアンケート調査などを行い，メーカーの材料開発に協力している．

⑥他県からのさまざまな要請に応じて，研修会の応援など多くの事業を推進している．

全国 SHP 歯学連絡協議会の設立と課題

全国的に数万人の会員組織をもつ空手の団体がマウスガード装着の義務化を決めるなど全国的な要請に対応するため，全国に受け皿づくりを拡大する必要性が生じ，SHP の全国組織を立ちあげた．詳細は「はじめに」で記述した通りであるが，将来へ向けて全国的に対応すべきいくつかの課題もある．

①マウスガードの価格設定について．とくに成長期の児童，生徒への普及は低価格が求められ，文部科学省からのスポーツ外傷予防のための助成が実現できないかということ．

②口腔内に装着するものとして清潔，精密，十分な調整，管理が必要であり，歯科医院でのみ装着可能とすること．

③マウスガードの作成は歯科医学，医術の総合的な対応が必要である．日歯や体協など関係者の主催する高度な研修をクリアした，公認スポーツデンティストの養成を行う必要性がある，などなどまだ多くの難題を抱えている．

おわりに

来年は神奈川県で開催することになるが，さらに多くの県に参加してもらい，日本スポーツ健康づくり歯学協議会（JSHP ： Japan Dental Conference of Sports and Health Promotion）として新たにスタートする予定である．健康増進法が施行さ

れた今日，Total Health Promotion への対応は JSHP の新たな役割として位置づけられ，8020運動とともに21世紀の地域歯科保健医療の推進役として活動していくものと確信している．

文　献

1) 愛知県スポーツ・健康づくり歯学協議会会誌：2000. Vol.1, 2001. Vol.2, 2001. Vol.3, 2001. Vol.4
2) Dental Review. 日本歯科評論 10：145-154, 2000.
3) 根来武史ら：マウスガードに関する実態調査－小・中学生ラグビー選手に対するアンケート調査．愛知学院大学歯学会誌 40(2)：243-253, 2002.